

子どもの本だな 80

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

スーザンのかくれんぼ

 ルイス・スロボドキン作
 やまぬしとしこ 訳 (偕成社)

スーザンは兄さんたちからかくれる場所をさがしていました。スーザンが大嫌いなクモを見せようとするのです。おかあさんにたずねて大きなかしの木の後ろにかくれると、お隣のおばさんからまる見え。ものおきの裏にいくとゲリーさんに声をかけられ、バラのしげみにかくれるとゆうびんやさんに見つかり、イヌ小屋にかくれるとイヌのローバーに追い出されました。どこがいいかくれ場所かしらと考えながらスーザンは大きな柳の木の下にしずかにすわっていました。すると目の前を兄さんたちがかけていき、ゆうびんやさん、おかあさんがとおりすぎ、最後にはみんなでスーザンをさがし始めました。

さわやかな色合いの水彩画を背景に人物が表情豊かに生き生きと描かれ、とてもいいかくれ場所をみつけたスーザンのうれしい気持ちが伝わります。読んでもらえば4歳から楽しめます。

(西村)

おそうじをおぼえたがらないリスのゲルラング

 ジャンヌ・ロッシュ=マゾン 作
 山口 智子 訳 堀内 誠一 画 (福音館書店)

ブナ林に 11 匹の子リスがおばあさんリスと暮らしていました。末っ子のゲルラングは、そうじがきらいで怠けてばかりいました。ふさふさのしっぽをほうきにして傷めなくなかったのです。

どうしてもそうじをせず家を追い出されたゲルラングは、オオカミに捕まりました。それでも、そうじはおぼえたくありません。オオカミは、なにもできないリスを食べるわけにはいかないと、ゲルラングをしつけることにしました。食べた後の片づけを教えるため、オオカミは、あちこちを駆け回り、肉やジャガイモ、りんごを集めます。家も作ってやりました。

意地っ張りのゲルラングが、おばあさんの機転でオオカミから救ってもらい、おばあさんを喜ばせるためにそうじをおぼえる結末まで楽しませてくれます。子リスに振り回されるオオカミの姿がユーモラスに描かれています。読んでもらえば5歳から楽しめます。

(竹内)

7月	8月	7・8月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
2日	6日	塚森 地域内 10:30~ 10:50	沖代 地域内 11:00~ 11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
9日	13日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
16日	20日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

<お知らせ>
絵本の時間・おはなしの時間を一部再開します。

休止していた「絵本の時間」「おはなしの時間」を、規模を縮小して一部再開します。7月は下記の通りです。

◆「絵本の時間」

- ・7月 2、9、16、23、30日
- ・毎週木曜日 11:00~11:30

◆「おはなしの時間」

- ・7月 18日、25日(各土曜日)
- ・11:00~11:30の1回のみ
- ・対象は4才~中学3年生まで

【注意】

- ①人数が多い場合は、**人数を制限**させていただきます。
- ②おはなしの部屋に入る時は、**マスクの着用**をお願いします。

『意識と感覚のない世界 実のところ、麻酔科医は何をしているのか』 ヘンリー・ジェイ・プリスロー 著

小田嶋 由美子 訳 みすず書房 215頁 2019年12月刊 2,800円 (請求記号) 494.2

著者はこれまで30年以上、主に子ども専門の麻酔科医として3万回以上の処置を行ってきた。患者は700gの極小未熟児からとんでもなく太った10代の若者、時には100歳の老人まで幅広く、科も症状も状態も様々だ。麻酔管理をしている時、著者は内科医、産婦人科医、そして小児科医になる。

「ぼく、シリアルをたべたよ」手術直前、そう言って悪戯っぽく笑う4歳のマイケルに著者は困惑した。彼は何度も手術を受け、一連の流れを熟知し、手術前は誤嚥性肺炎などの合併症を防ぐため胃を空にするため絶飲食である事も知っている。嘘か本当か。著者は何も食べていないと言う看護師の言葉を信じた。ところが麻酔が挿入されると「ゲブツ」マスクを外すと一口分のシリアルが現れた。急いで口からシリアルを吸い出し、最悪の事態は免れた。有害事象すれすれ、合併症発症一歩手前の出来事だった。他にも「何も問題はない」はずの生後12ヶ月の女の子に麻酔を投下した後、酸素レベルが急激に下がった。以前肺炎を発症し手術が延期になったことを思い出し、胸部X線を撮ってみるとガンが見つかった。今回は助かったものの、自分がきちんと確認していたら、全ての些細な事から見解を導き出し、もつと早くに気付けたかもしれない。「信頼せよ。ただし確認は怠るな。」著者はこの言葉で自分を戒める。

麻酔はあらゆる痛みを鎮静してくれるが、潜在的なリスクがある。麻酔科医は最善の結果を得るために、医学の全分野に精通する幅広い知識を維持し、広範な情報に注意を払うため、常に各分野の専門書をめくり、情報を探す必要がある。術前から術後まで、ケアと専門知識が常に要求される麻酔科医の仕事は多岐に渡る。

様々な事例や麻酔の歴史などと共に、麻酔科医としての著者の日常が綴られている。患者がゴリラだった話や、著者が患者家族側になる話、古代の術式から麻薬と麻酔の関係など興味は尽きない。麻酔科医の存在の重要さと有難さを再認識し、麻酔薬が存在しない時代でなくて本当に良かったと心底思う。麻酔発見から170年以上たつが、麻酔が作用するメカニズムは未だに解明されていない。

(池之上)

<お知らせ>

●一日図書館員の募集

- ・日時:7月26日(日) 9:15~18:00
- ・対象:小学6年生~高校生
- ・定員:3名(要申込)
- ・締切:7月19日(日)
- ※本人来館の上、窓口で申込んでください。

●13歳からの読書会

『ロビン・フッドのゆかいな冒険』を読んで
(ハワード・パイル作 岩波書店)

- ・日時:8月9日(日) 14:00~15:30
- ・場所:図書館 読書会室
- ・対象:中学生以上(要申込)
- ・準備:当日までに本を読んできてください。

7月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	X	8	9	10	11
12	13	X	15	16	17	18
19	20	X	22	23	24	25
26	X	X	29	30	31	

8月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	X	5	6	7	8
9	10	X	X	13	14	15
16	17	X	19	20	21	22
23	24	X	26	27	28	29
30	31					

* カレンダーのX印は休館日 * 〇印は館内整理日、返却のみ受付(10:00~17:00)

* 開館時間は10:00~18:00、金曜日は20:00まで閉館

地下水

梅雨に入ってから雨や曇りの日が多くなり、もう何日も快晴と呼べる天気を見ていない。気象庁によると、平年に比べて梅雨明けまでの期間は短いそうだが、7月半ばまでこのジメジメとした気が続くかと思うと、少々気が重くなる。加えてマスクを着けていると、汗と湿気で口元が非常に蒸れてくる。そのせいでニキビが増えてきたことが私の最近の悩みである。

それはさておき、新型コロナウイルスの影響で3月から休館していた図書館だが、およそ3ヶ月ぶりの5月30日から開館することができた。7月からは「おはなしの時間」や新聞の閲覧などのサービスも再開する。図書館に多くの方が出入りし、書架を眺めて本を探されている利用者の姿を目にすると、少しずつ日常生活に戻りつつあるのだと感じる。開館してから1カ月の間、多くの利用者に足を運んでいただいているが、外出自粛中に図書館に行けなかったという方々から、喜びの声を頂くことが度々あった。その声を聞く度に、気持ち新たに励んでいこうと決意を強くする。司書として今できることを、ひとつひとつこなししていきたい。

(光藤)

